セカンドライフはいきいきライフ

～一人の人間として幸せに過ごすために～

世間では「2007年問題」が話題になっていますが、戦後の日本の高度成長期を担い多くの人が会社にエネルギーを注いできた団塊世代の60歳定年退職が今年から始まっています。

2006年の日本人の平均寿命は男性が79歳、女性が85.8歳ですから60歳で退職したとすると、その後の人生がまだ20年から25年ほどあります。生まれてから成人するまでと同じ年月をもう一度自由な時間の中で過ごせるのです。

そこで一足先にセカンドライフを愉しんでいらっしゃる佐藤雅秀さん、渡辺隆司さん、渕野光三さんに、その様子をお話しいただきました。

大分市の団塊世代（57～59歳）の人口：25,667人（2007年3月末現在）

退職後、どんな生活を送っていますか？

佐藤　新聞記者として長年新聞社に勤めてきました。新聞社を退職してから農業とフリーライターをしています。

新聞記者時代は、仕事が非常に忙しくて、一週間先の休みの日程さえもままならない程でした。そんな忙しい生活を続けている中で、自分のやりたいことをしたいという思いが沸いてきたのです。そのやりたいことが農業でした。現在週の3日は農協のお手伝い、2日は団塊世代のコーディネーター、後は久住と杵築で出張農業といった生活をしています。ガソリン代が高くつくんですけどね。（笑）

佐藤　雅秀さん

渕野　私は、建設業界ゼネコンに勤務していましたが2年前に退職し、現在は独立起業して会社時代の専門知識を活かしたコンサルタント業務をしています。また、職人の技術の伝承や活躍の場を作るために人材バンク活動にも携わっています。

退職後は会社という枠をはずれて自由になり、いろんなところに出て行っています。

渡辺　定年の年齢より2年早い58歳で地元民放を去年8月、早期退職しました。4～5ヶ月家庭菜園をしながらやりたいことを考えていましたが、自分が知りたいことがいっぱいあるのに1年前は情報があまりなかったんです。そういうことから今は、家庭菜園と団塊世代情報サイト運営というインターネットを利用したホームビジネスをして毎日を過ごしています。

家族との関わり方は変わりましたか？また地域と関わっていますか？

渡辺　今は自宅のリビングで仕事をしているので、毎日家族と食事をとれるようになりましたし、以前は話さなかった仕事のことも家族に話をするようになりました。それといろんな人との付き合いが広がったことや上下でなく横の付き合いになったことで、女性の気持ち、女房の気持ちとかに配慮するようになりました。それから自治会活動に誘われるようになりました。地域の寄り合いに行ってみると僕らの世代はまだまだ少ないようです。

渡辺　隆司さん

渕野　現役時代は月曜から金曜は仕事、土日は家庭でコミュニケーションと自分の中ではどちらも充実していたのですが、娘たち家族からしてみればお父さんは家にいないものと思っていたようです。今では毎日私が1番早く家に帰っているのでしっかりコミュニケーションをとっています。地域とはマンション住まいもあって今のところ参画していませんが、「おおいた団塊クラブ」に入ってそこからのつながりが広がってきています。

佐藤　自分の思いで安定したサラリーマンを辞めたこともあり家での僕の立場がかなり下がりました。（笑）

退職前から家でコミュニケーションというか聞かれることには答えていましたが、生活パターンが変わったことで寝る前に「明日は○○へ何時に出発」という日替わり会話をするようになりました。それから一緒に買い物に行くようになりましたね。献立を話しながら買い物しています。地域との関わりですが、自治会のソフトボールやゴルフなどで親睦を図る機会もあるのですが、今までは忙しくてね。でも清掃活動には参加してますよ。

退職を控えている世代へのアドバイスはありますか？

佐藤　退職前に人間ドッグを受け、悪いところを治療しておき、できるだけ健康でいることと、退職後の生活費がいくら必要か試算しておくといいと思います。私の場合、退職後は退職前に比べて、およそ半分以下の生活費で暮していけることに気づきました。健康で生活費が少なくて済むことがわかれば、セカンドライフを不安なく設計できます。

渡辺　先日、僕は健康・環境・倹約という3つの「K」をスローガンに自転車で筋湯温泉に行きました。元気だからいろいろできるのであって、健康、体力を維持しておくことが大事だなと思うのです。僕の場合退職してからあれやこれや考えたという大きな反省がありますので、50才になったら身体のことや、自分の生き方、死に方も含めてセカンドライフを考え始めていたほうがいいと思います。

チャレンジしたいことがありますか？

佐藤　たくさんチャレンジしたいことがあります。先ず、小説を書いて文学新人賞を狙ってみたいですね。それから、大分の農村を活き活きとさせるような研究活動をしたい。それに政治にも参画してみたいし、新しい大分ブランド農産物を作ってみたい。まだまだ自分のセカンドライフを充実させた生活を過ごしたいですね。

渕野　家族とコミュニケーションを取りながら、今、経営している会社を「あそこは光っている」といわれる技術屋集団のある会社にしていくつもりです。「あそこに頼みたい」とみんなから認められる会社にね。

渕野 光三さん

渡辺　今運営しているWebサイトを大きく変革させたいという夢があります。リタイアしたプロフェッショナルな人とともに話題豊富な面白いサイトにしたいですね。

常に時代をリードしてきた団塊世代の人たちが心身ともに豊かなセカンドライフを実践しています。組織の中の自分ではなく、一人の人間として幸せに過ごせるかどうかがポイントのようですね。

◆大分市では老若男女みんなが活き活きと生きることができる男女共同参画社会の実現を目指しています◆